

339

362

蘭培養錄

山本久助著



始





357

862

山本久助著

蘭培養錄 全

發行所 日本種苗株式會社書籍部



山本久助 著

蘭 培 養 錄

全

大正

8. 8. 5

南文

發行所

日本種苗株式會社書籍部



意 貴 道



從四位勳三等功四級 熊谷篤宜閣下題辭

大正  
3. 3. 5  
内交



大正二年春

松崎龍  
璽  
印

新派俳句の大家 廣江八重櫻君題句

菴桑  
古松  
鳥  
余  
枝  
竹  
晴  
下



丑ハ谷

...



蘭培養録序文

蘭 培 養 録

梅花の馥郁たる、竹葉の婆娑たる、菊花の清楚たるも  
さる事ながら、四君子中、余は蘭の韻逸なる風姿、雅麗な  
る薫香を特に賞美し好愛するものなり、而して又之が  
一鉢に數萬金を投じて吝まざる富豪貴族の金床玉欄  
に飾られんより、眞に蘭を愛し、眞に蘭の培養に興味を  
有する人の椽邊窓側に養はれんことを希望するもの  
なり

従來蘭培養の如きは富豪の輩か、若くは御隠居の閑  
事業視せられたるもの、近時園藝熱勃興して花卉盆栽  
一



の流行盛なると共に、素人園藝家の植木棚にも數鉢の  
盆養蘭あり、白亞洋館の卓上にも之を見るに至りしは  
余の最も絶快に感ずる所とす、何となれば常に濃香濃  
彩の花弁のみを賞美して詩趣雅致ある盆栽の妙味な  
どを解せざる外人が蘭の愛培に従事するが如きは、正  
に其の眞價を知り、其の風韻を認めたればなり、茲に於  
てか余は蘭の爲に喜び又蘭の培養の益々盛ならんこ  
とを望む

山本氏の蘭培養録一篇、余と同じ感想、同じ希望の下  
に執筆記述せられたるや否やは知るを得ざるも、内容  
を一見するに實驗的見地より蘭の培養管理の法一切  
を、簡單明快に説きて頗る要を得たり、一般同好者の參  
考書たるは勿論なれど、余は特にその初心者爲めに  
恰當のものなりと獎めんとす、著者の請に應じ一片の  
感想を陳べて序となす、

大正三年二月 日

米國農學士 井 上 熊 夫



蘭培養録自序

蘭は清香馥郁として愛らしき植物なれども其培養法は古來盆栽類中最も困難なるものにして其肥料用土手入繁殖法等を知らざるが爲め高價なる蘭を購入しても終に衰弱枯死せしむる者少なからず

本書は斯る人の葉として培養法を稍々詳しく説述したる心算なり若し是が爲め培養法の一端を知り雅香麗美なる花を觀賞して心身を慰安せしむることを得れば幸甚なり



本書の爲めに熊谷將軍閣下より題辭を廣江八重櫻氏より題句を特に與へられたるは大に感謝する處なり

大正三年

山本久助識

蘭 培 養 録 目 次

第一章	種 類	一
	日本蘭	二
	支那蘭	四
第二章	氣 候	六
第三章	鉢	七
第四章	培 養 土	九
	觀花用土	九
	蕃殖用土	一一
第五章	株 分 期	一三



第六章 栽植法……………一四

第七章 水……………一七

第八章 灌水法……………一九

第九章 肥料……………二二

第十章 露地培養……………二六

第十一章 蕃殖……………三二

第十二章 管理法……………三五

第十三章 養蘭四訣……………三九

第十四章 病蟲害……………四〇

根腐病……………四〇

蛭 蟲……………四

貝殼蟲……………四一

蟻……………四二

第十五章 相 場……………四三

第十六章 培養十二月……………四五

一月……………四五

二月……………四六

三月……………四七

四月……………四九

五月……………五

六月……………五



蘭 培 養 目 録 次 終

七月	五二
八月	五三
九月	五四
十月	五五
十一月	五五
十二月	五五

蘭 培 養 目 録

山 本 久 助 著

蘭は常緑葉にして風姿優しく而かも其花の清麗薫香なるは吾人の心神を慰藉爽快ならしめ古來より梅蘭竹菊の四君子の一として縁喜良く文人雅客に愛賞せられ冬春は机上或は床の間に飾られ夏秋は前庭の盆栽棚に花木と共に觀賞せらるゝが故に四時都鄙を通じて培養するもの漸く増加し今や東洋は勿論西洋の墨客風流人園藝家に益々愛培せらるゝに至れり。

第一章 種類



蘭は其種類甚だ多く之を細別すれば數百種の多きを有すれども本書には普通世上に於て最も賞觀せらるゝ日本蘭及び支那蘭の主なるものに就て説述すべし

すうからん (日本蘭) はを之 (雄蘭) (野向守人番蘭) 老 (老)

●寒蘭 青緑色の大葉にして花稀なる冬季に開花し且つ芳香高く

紅花及び白花の二種あり

●駿河蘭 又薩摩蘭とも云ひ葉形長く直立性にして二尺位に伸び

培養宜しきものはよく三尺以上に達するものあり葉色は青くして花

は白色を呈し五六月頃咲き性强剛栽培容易にして能く繁殖する品種

なり

●金龍邊 性質強健にして葉は中形葉端は稍々白色を帯び六七月

頃白地に紫紅色の斑點ある花を密に咲く

●豊賽 葉莖頗る長大にして青く風姿偉觀なり花は稍々粗く着生

して初夏の頃に開花す

●桑原縞 豊賽を改良變種せしめたるものにして葉莖一層雄大且

つ葉に鮮明なる白縞斑を有し花は立夏頃より芒種頃の中に咲き葉花

共に甚だ美觀なり

●寒法蘭 青葉の中形にして頗る長く花は白黄色にして香氣強く

寒中に開花す

●紫金龍 大葉にして爪白斑を呈し夏季紫紅色の美花を叢生し性

質稍々強し

●大和錦 葉は青綠色に黄縞を帯び中等にして性强く培養容易に

して花も亦麗美なり



富士 葉は金龍邊より稍幅廣く厚くして白縞を有し風姿高雅なり花は淡紅色にして多く暑中に咲く

玉花 中葉の爪斑にして能く蕃殖し六月頃淡白赤色の花を開花す

山蘭 山野に自生するもの多く從て性强健にして培養易く小葉にして芳香氣高き青白色の小花の早春開くが故に一名を春蘭とも云ふ又國香幽蘭とも云ふ

小蘭 蘭の中にて最も細小葉にして風姿愛らしく青色にして清麗なる花を八十八夜頃より入梅前頃までに開花す

支那蘭 葉は青緑に白中縞を有し中形にして花は青色を帯び香氣

玉枕 葉は青緑に白中縞を有し中形にして花は青色を帯び香氣

蘇秦 大葉又は中葉にて玉枕によく類似し六月頃淡青色の美花を咲き出す

大朋 葉は青く壯大にして花も亦大きく五月頃赤き鮮麗なる花を開く

金華山 大葉にして葉端末の爪白斑を有し風姿高尚にして五月中旬頃より六月頃に紅色の美花を咲き花香亦優逸にして近來の珍種なり

太白冠 中葉の爪斑にして夏季開花し性强健繁殖力強く盆養と爲し又花壇植となすことを得べし

太平樂 青葉の中等にして四五月頃白色の花を咲き香氣卓絶せる優品なれども性稍々弱き憾あり



二十 二葉一花 葉形細小にして性強く寒中白色なる小花を續開して  
 高尙雅美なり  
 ●一莖九花 短細なる青葉にして早春の頃一莖一花の如き白色の  
 愛雅なる花を開き花香遠くに薫する良品なり  
 ●欽孝連 葉は綠地に白縞を有し覆輪の大葉にして花香高く風姿  
 頗る壯觀なり

第二章 氣候

蘭は亞熱帶乃至温帶の植物にして氣候稍濕潤なる温暖を好み寒氣を  
 最も忌むものなりされば秋の半ば頃より降霜前に注意して寒風の吹  
 き込まざる温暖なる室内に靜かに取り入れて凍害を避くること肝要  
 なり

若し一朝霜雪の害に逢はしむる時は如何に高價にして健全なる蘭と  
 雖も遂に枯死腐朽するを免れず又餘り空氣乾燥にして暑熱烈しく降  
 雨稀有なる場所に在りては生育困難にして從て花を生ずること少な  
 きものなり

第三章 鉢

蘭を盆養となす時は鉢の良否に由りても亦生育着花に影響を及ぼす  
 ものにして成る可く水切れ宜しきものを撰ぶを良とす普通の盆栽に  
 用ふる彼の本焼或は石焼の如く念の入りたる鉢に栽植する時は外觀  
 美麗なれども水切れ良好ならざるが故に蘭の生理上餘り宜しからず  
 されば寧ろ粗製の土焼或は素焼の方却て良好なり尙外觀美事にして  
 且つ適當なるものを求めれば支那交趾燒伊萬里古燒京都製樂燒等は



最も宜し

鉢の大きさは栽植すべき芽株の數により或は品種に由りて多少異にすべし即ち一莖九花春蘭小蘭の如き小葉にして比較的根の短矮なる種類にありては小なる盆に培養しても可なれども大朋寒蘭暖河蘭の如き大葉にして根も亦長大なるものによりては勢ひ大鉢に栽植せざるべからず而して栽植すべき芽株は品種により根の長く伸びざるものは口径六寸高さ六七寸位の鉢に十條乃至二十條を栽植すれば最も良し又根の長大なるものは口の直径八九寸高さ一尺内外の鉢に十五條乃至二十二三條位を栽植することを得べし  
尚口径一尺以上の大なる鉢に四五十條も栽植し置く時は其盛花期には頗る美麗壯觀なるものなり  
要するに鉢は口径の割合に丈け高く大なるものを用ふるを良とす

### 第四章 培養土

培養土の善悪は蘭栽培上功敗に關する一大重要なる事項なれば注意周到にして能く其當を得たる様に作ることに肝要なり之を作るには二法あり即ち觀花用に供するものと専ら繁殖用に供するものとあり  
左に各用土の調製方法を記述すべし

#### 觀花用土

蘭は性淡泊なる土を好むものなれば有機物に富める肥沃土等は決して用ふべからず若し是等の腐壤を養土に供用する時は根の生育を害し或は腐敗せしめ遂に全體を枯死せしめ失敗に終らしむるものなり  
されば是が最も適當なる養土を調製するには成る可く細かき白砂(清



流の砂なれば最も宜しに輕き赤土を三分許り篩ひ込み之に豫め馬糞を堆積腐熟せしめたるものを能く蔭干にし臼に入れ搗き碎きて粉末となし細目の篩に掛けて吠等に入れ床下或は土藏等の風の通はざる場所十に三個月間程貯藏したるものを土壤一貫目に對し五匁乃至二十匁位の割合に加へ又木炭末を十匁程加へよく相混じて用土と爲すべし尙干大根殊に寒釣大根の煮汁に飴の煮汁と田螺の潰したるものとを加へ瓶或は壺に入れ蓋をなし十日間程雨及び陽光を受けざる處に放置したるものを箆に移して汁液を漉し田螺殻を取り除き其瀝汁にて右の土を十分攪き交せて用ふる時は生育佳良にして美花生ずること多し而して此用土を盆に入れるには先づ底部に粗砂若しくは木炭末を盆の高さの十分の二位まで置き其上に養土を填入し二三日間を経て栽植すべし

蕃殖用土

蘭の條株を大に繁殖し賣却して多大なる利益を得或は多く觀賞せんと欲せば宜しく適當なる用土を作ること必要なり其法は先づ流れ靜穩なる溝河或は沼澤の底に沈澱せる汚泥土を春或は秋の彼岸前後に堀り上げ秋季栽植用土となすには春季堀り上げし泥土を夏土用に打切りて細かく碎き強烈なる日光に曝して害蟲或は微菌を死滅せしめたるものを用ふべし又春季栽植用土と爲すには秋季堀り上げて嚴冬霜雪に充分曝露し細粉土となし貯藏して翌春栽植の好期に至り取り出し篩に通したるもの四分に白砂四分赤土二分の割合に混入し是に豫め桶又は壺に水を入れ灰を投入して灰汁を製し時々此灰汁を右の土に注ぎ置き別に川蜆なれば其儘海蜆なれば清水



に入れて能く鹽分を吹き出さしめ(蘭は鹽氣を忌むものなれば)沸騰せる湯に投じて十分燻で殻を去り其煮汁に干大根の煮汁を加へて五六日間程樽又は瓶に入れ雨水の浸入せざる土中に貯へ置きたるものにて前の混合土を攪き交せて植料となすべし  
蕃殖用には成る可く大なる鉢を撰みて根の伸長を充分にし又株の繁殖に都合良からしむべし鉢底には礫を置き其上に白砂を敷きて排水をよくし然る上に養土を盛り尙鉢の内側に接して周圍に田螺を搗き潰し殻を去り十分乾燥したるものを石臼に入れ挽き碎きて粉末となしたるものを散布して栽植すべし然る時は生育頗る良好にして能く芽株を増殖することを得べし是れ蘭を蕃殖せしむる秘訣なり然れども田にしを粗く碎き或は多量に根部に接近して施す時は往々根を腐敗せしむることあれば注意すべし

### 第五章 株分期

蘭の株分或は移植を行ふ好季節は春秋の二期あり春季は春彼岸頃より四月下旬頃までに植ゑ又秋季栽植するには九月中下旬頃を以て最も適當なる時期なりとす若し都合により春の好期を逸し又秋の好期に分栽すること能はざれば遅くも十月上旬までに行ふべし中下旬以後に於て分栽移植等を行ふ時は時候漸く寒冷を増加するが故に根の末だ土壤に沈着せざるうちに寒害を蒙り易く枯死するもの少なからず假令枯死せざるも活着に長時日を要し生育不良即ち株の勢力悪しく花胎を害し爲めに翌年の花の發生を大に減少せしむることあり

### 第六章 栽植法



既に分栽の好期に至れば前年栽植せし株を盆内の土壤と共に徐ろに  
轉倒して葉及び根に傷付けざる様に極く丁寧に抜き取りて静かに土  
を拂ひ去り清水にて能く洗滌して枯葉及び腐敗したる根變色したる  
根等を切り棄て更に綺麗に水洗したる後栽植するを良とす  
枯葉腐根などを剪除するには鋭利なる剪刀を用ふるも可なれども成  
る可くは金物製の刃物を避け竹を薄く削りたるもの即ち篋の如きも  
のにて丁寧に切り去るを良とす  
蘭は根と根と相纏繞する性あれば久しく植換へを行はざるものは株  
分の際根に負傷せしめざる様特に注意して自然に分るゝ部分より徐  
ろに分離し豫め培養土を盛りて準備せる鉢に根を餘り曲げざる様に  
直下に向ひ静かに植込み水を澆け指の腹にて根元を軽く押し付けて  
置くべし此際土壤を固く壓す時は根を損傷し又根の發育を害するも

のなれば注意すべし  
栽植すべき條株の数は適宜にして一鉢に少數栽植する時は生育良好  
なれども觀賞の價値少なければ一株に少なくも七八條以上を栽植す  
べし尤も品種により多少異れども一鉢に大抵十四五條乃至二十條位  
を一株として栽植すれば外觀美にして生育も亦宜し斯くて栽植を終  
れば如露にて灌水し其後一週間許りは午前中即ち午前九時頃より同  
十二時頃までに一回づゝ水を與へて日蔭に置き後日當り及び通風能  
き場所に取り出して生育を良好ならしむべし  
蘭は下方に根を伸長すると雖も株の繁殖するに従ひ根數も亦多く續  
出し又年を経るに従ひ新根は古根の間或は上に發生して互に纏合ひ  
漸次上方に根を延張して綱目狀となり生育繁殖を自ら妨害するもの  
なり其故に蘭鉢は他の盆栽鉢よりも殊更長大なるものを撰みて栽植



し根の相密迫するを防ぎ成る可く自由に蔓延せしむること必要なり  
而して栽植後二年目遅くも三年目には必ず他の新培養土に移植せざ  
るべからず

若し然らずして尙長年月間移植分栽等を行はず其儘放任する時は新  
根は舊根の爲めに下方に伸出すること能はず其がために根は横に延  
長し終に土壤の上に露出して緑色を呈し夏季炎熱の爲めに往々焦枯  
することあり又毛細根は盆の肌に着し爲めに水を與ふるも肥料を  
施すも吸収消化すること困難なるのみならず水濕の下方に透過する  
を妨止し如何に良好なる肥水も空しく盆内に停滞して根を爛らし次  
で株の勢力漸く衰弱し葉は黄色に褪せ遂に枯死腐朽するに至るもの  
なり  
要するに移植或は分栽は其生育蕃殖の度を見て事情の許す限りは毎

年之を適當に行ふを良とす

第七章 水

水は河水井水雨水等何れを與ふるも宜しけれども銅氣ある水或は鹽  
氣ある水等は決して遣るべからず若し銅氣ある水或は鹽分を含める  
水を與ふる時は根を害し又葉に掛る時は葉を損し生育次第に衰へ終  
に枯滅するものなり

又河水の便なき海濱或は海を埋めて土地となしたる場所等の井水は  
兎角鹽氣有り勝ちのものなれば其まゝ與ふる時は蕃殖力弱きのみな  
らず株の勢力振はず往々枯死することあり斯の如き地方にありては  
水を俗に云ふ砂漉即ち桶の下部に細き穴を明け其穴に細目の笊を覆  
ひ其上に清淨なる白砂を盛りて水を汲み入れ下部の穴より濾過して



瓶に入れ一週間許り日蔭に静置し然る後上澄を汲み取りて用ふべし又雨水を桶或は瓶に貯へ置きて澆けるも宜し雨水は蘭に與ふる水として最も良く適せるものなり  
水は成る可く純良なるものを撰むべく而して汲立ての生水は生育上餘り良好ならざれば桶又は瓶或は壺等に入れ子子の生ずる位まで貯へて腐敗せしめたるものを與へるを良とす  
水を汲み置きてより三四月の頃は大概二週日夏季は三四日乃至七八日秋季は十日冬季は二三週間位經過せしものを澆げば和かにして生育最も佳良なり  
然れども豫め斯の如き準備なき時は前晚或は其日の早朝に汲み置きて日中に灌水し汲立ての水は避け用ひざる様に心懸くべし

### 第八章 灌水法

灌水は暑熱の候には成る可く日盛りを避け朝或は夕に行ひ冬春の寒き頃には日中に與ふるを良とす夏季炎暑の際には日中は陽光の爲めに鉢及び土壤は暑熱を受吸し居るを以てかゝる處へ俄かに冷水を注ぐ時は水氣の蒸發著しく且つ暑熱を頓に冷却せしむるが故に根の發育生理上宜しからず而して灌水を行ふには如露にて注意して成る可く葉に掛けざる様に根元に大概土壤の潤ふ位に遣るべし尤も夏秋の候は静かに葉上より灌水するも可なれども冬春の寒冷なる時期には決して葉に水を澆ぐべからず  
灌水の回数及び施與量は時候の寒暖乾濕に由りて異なるものなり即ち夏季早天績き乾燥する際には毎日朝夕土の濕る位に與へ亦夏季と雖



も乾燥せざる時には一日一回或は二三日に一回遣るべし但し降雨多  
湿の際は此の限りにあらず寧ろ乾く様にする必要にして四日に  
一回或は一週日に一回澆ぐこともあり九月中旬頃より十一月上旬頃  
までは盆土の乾濕を見て三日目乃至五六日目位に一回冬春は四五日  
乃至十四五日目位に極く少し許りを盆の周圍に注ぐべし  
右の施水回数是天候の著しき激變なき時に於ける普通の標準なりさ  
れば氣候により早燥する際には回数を増し又雨多く寒冷にして濕潤  
なる時は回数を減じ宜しく氣候を察慮し亦土壤を検して其施量を加  
減すること肝要なり  
寒中は餘り水を遣る必要はなければ只表土の稍々濕る位に與ふれば  
十分なり又株を少し許り離れて周圍を指頭にて極く細小なる溝を穿  
ちて微温湯を極少量注ぐも宜し

若し寒中に水を多量に與へ全土壤を濕す時は寒冷の爲めに土壤凍結  
し株を枯死せしむること少なからざれば注意すべし  
(尙其月々の灌水回数は第十六章培養十二ヶ月に記述せり)  
灌水の要は其土の乾濕の度を見て乾きたる際には注意して適度に與  
ふべし若し土壤に濕氣あれば水分を遣る必要はなし蘭は稍々濕氣あ  
る土地に良く生育すると雖も常に濕潤なる時は根部を腐爛せしむる  
恐あり素人が往々株を黃衰枯死せしむる原因は餘りに濕氣を多量に  
與へるに由るもの多しされば濕潤に過ぎたるは取り返すつかず寧ろ  
乾燥に失したる方稍々取り返へしつき易きものなり  
灌水は大切なることにして常に土の乾濕を適度ならしむることは蘭  
培養中最も肝要なることなり



第九章 肥料

蘭 培 養 錄

蘭に施すべき肥料は種々あれども主なるものは田螺、蜆、蟹、大豆、粕、胡麻油、粕、棉實、油、粕、荏、油、粕、菜種、油、粕、米糠、骨粉、過燐酸、石灰、鹿兔の糞、餚の煮汁、麥の煮汁、魚腸の腐汁、腐膠、水、白、水、風、呂、水等にして就中油粕及び貝類を最も良とす

蘭は性田螺たつがひ蜆あさり等の貝汁を大に好むものなり然れども海に住めるものは鹽氣を含有するが故に害あれば淡水に入れ置きて鹽分を能く吐き出さしむる必要あり而して此等の貝類蟹等はよく搗き碎て白、水、或は麥の煮汁を加へて瓶に入れ雨水の浸入せざる暗所に貯へ置き四五十日位経たる頃に取り出し筵に移して殻を除去し汁液を濾したるものを用ふれば甚だ佳良なり

蘭 培 養 錄

油粕類は充分碎きて篩に通し粉末となし半年許りも其儘貯藏したるものを上面に振り掛ければ輕便にして宜しけれども降雨後或は灌水後乾く時は盆土と油粕と肌離れとなり肥料は巻き上り爲めに美麗清香なる蘭も觀賞の價値を損劣ならしむる虞あれば撒布後肥料の巻き上れば綺麗に取り去りて他の植物の肥料となすべし又油粕類を振りかけたる後直に其上部に薄く白砂を覆ひ置けば宜し然れども度々斯の如くして砂土を振り掛ける時は株を埋め遂に鉢の上縁以上に達し灌水施肥等を爲すこと能はざるに至るされば成る可く液肥となして施すを良とす

大豆粕の粉末一升に水一斗と米糠三合の割合に調合して風雨の當らざる舍内或は土中に十ヶ月以上貯藏して後ち使用の際に布袋に入れて濾過し滓を去り其濾汁に更に水を等分に混和して與ふべし



蘭 培 養 錄

又油粕の碎末一升に白水八升を加へて瓶或は壺に入れ日光雨水の透入する恐なき場所に置き時々攪拌して一年位経過したる後取り出し此液肥一升に一週間位貯へ置きたる水を八合乃至一升位混和して十分攪き交ぜたるものを與ふれば生育頗る宜し尙三四年間も貯藏したるものを用ふれば當り和かにして成蹟最も良好なり  
米糠は水一斗に三四百匁位加へて腐熟せしめ使用の際に水を三四割程混すべし尙之れに鶏糞の乾燥したるものを三百匁加へて充分腐化し更に水を四五分の割合に加入して與ふれば一層佳良なり  
又臨時に早急に製造使用せんと欲せば油粕一升米糠六合水一斗三升の割合にして鍋又は釜に混入し二三時間程煮沸して冷却せしめ策に移して漉し其汁液一升到水一斗内外を混合して施せば宜し  
又一法に在油粕一升大豆粕一升乾鶏糞二百匁の割合に混和し之れに

蘭 培 養 錄

水一斗五升を加へて釜に入れ約半量位になるまで煮詰めて冷したるもの一合に水一升乃至一升二合位混加して用ふれば肥當り柔和にして生育佳なり  
鶏の羽毛を温湯に一晝夜間浸漬し其まゝ一二週間位経たる時に澆與するも良し  
過燐酸石灰は株の多小に由り一回に三匁乃至七八匁を其儘施し又白水或は飴の煮汁に溶解して根元を少し許り離れたる處に施せば生育良好にして害虫の生ずる恐れなし  
白水は時々攪拌し腐敗せしめて施すべし若し其沈澱物あるものを與へるときは鉢内に地皮を生じて外觀の美を害することあれば成る可く上澄液を汲み取りて澆ぐべし  
又茶を能く煎じて二三日乃至十日間も其まゝ放置し酸敗するを待て



施すも善し殊に冬期は凍害を虞るゝが故に灌水の量を減じて此煎茶液を與へる時は株の勢力良く能く越冬し花を發生すること多し鹿或は兎の糞は乾燥して少量の過燐酸石灰を混和して根元に埋め置けば芽株を増殖するに最も効あり牛糞は豫め能く乾かして搗き碎き粉末となしたるもの百匁に骨粉二十匁木炭末十匁乃至二十匁を混合して施せば宜し施肥の分量は期節に由り又生育の程度に依り或は鉢の大小株數の多寡等によりて多少異なるものなれば氣候及び其發育の状態を見て適當に施すこと肝要なり

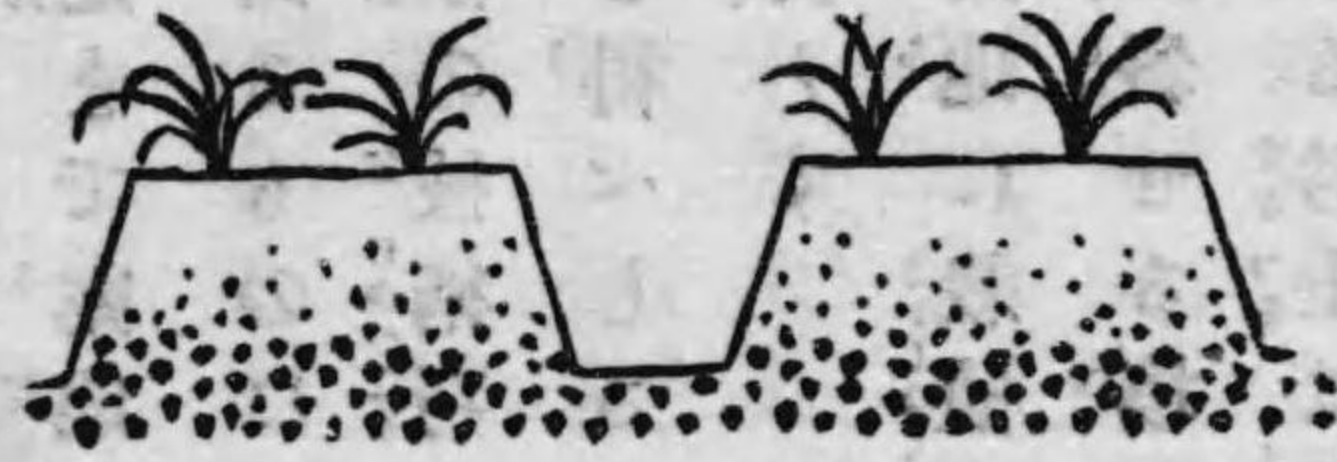
### 第十章 露地培養

蘭は鉢にあらざれば栽植すること能はざるものゝ如く思惟するもの

多く専ら鉢植を廣く慣行すれども露地にても土壤管理等宜しき時はよく培養することを得るものなり是まで露地に栽植せざるは多く地質施肥手入法等の完全ならざるに由るものにして圃地と雖も栽植培養し能はざることとはなし否其培養法の技術巧妙なる時は却つて美花を生じ能く生育繁殖せしむることを得べしされば専ら繁殖せしめんと欲せば宜しく露地栽培を爲すを良とす露地に栽植するには先づ土質を撰むこと肝要なり即ち南に面して稍傾斜せる場所にして有機物少なき輕き砂土俗に云ふ小金を多く含有する砂土は最も宜しの排水佳良なる地を撰定し地を七八寸位掘り下げて底に砂礫を三寸位の厚さに敷き其上に土壤を盛り白砂二分輕鬆なる赤土一分を混入して精耕細土となし尙之に卵殻を粉末となした



蘭 培 養 録

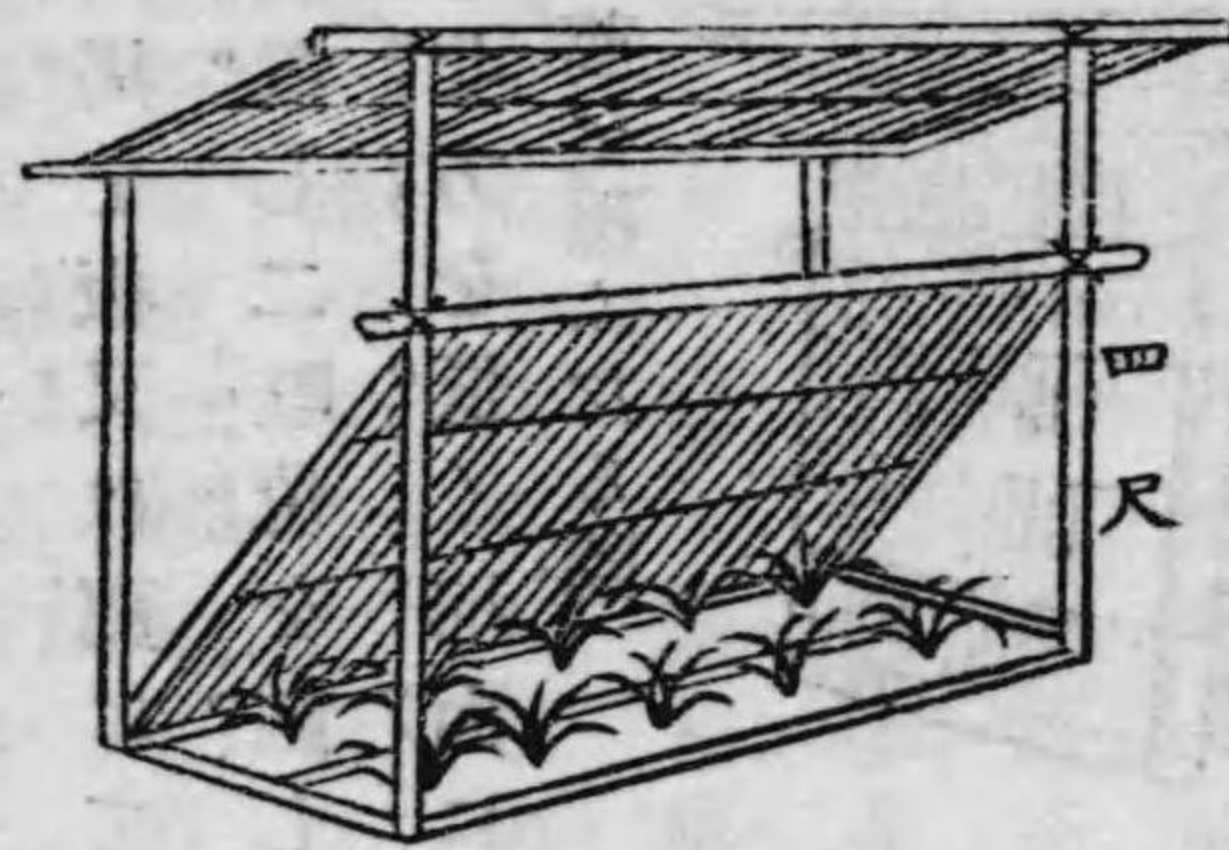


るものを土壤によく混交すれば最も妙なり斯て幅二尺乃至二尺二寸高さ六七寸位の畦を作り畦間は巾一尺の溝となし畦上二列に株間一尺乃至一尺六寸を隔て、十條乃至十五條位を一株として栽植すべし

整地を終れば四月中下旬頃に葉根を傷めざる様に叮嚀に稍深植と爲し根元に灌水し畦側の處々に杭を立て地面より五六尺の上に竹或は丸木を渡して葭の簾を畦上に覆ひ強烈なる日光と雨水の掛るを防ぐべし又驟雨の降り來る際には更に板類或は菰類などを覆ふて雨に打たれざる様に注意すべし

肥料は油粕の粉末を株元より去ると三四寸位の處に周周に輪狀に小溝を穿ちて一株に五六匁乃至十二匁位を株の勢力の程度を見計りて

蘭 培 養 録

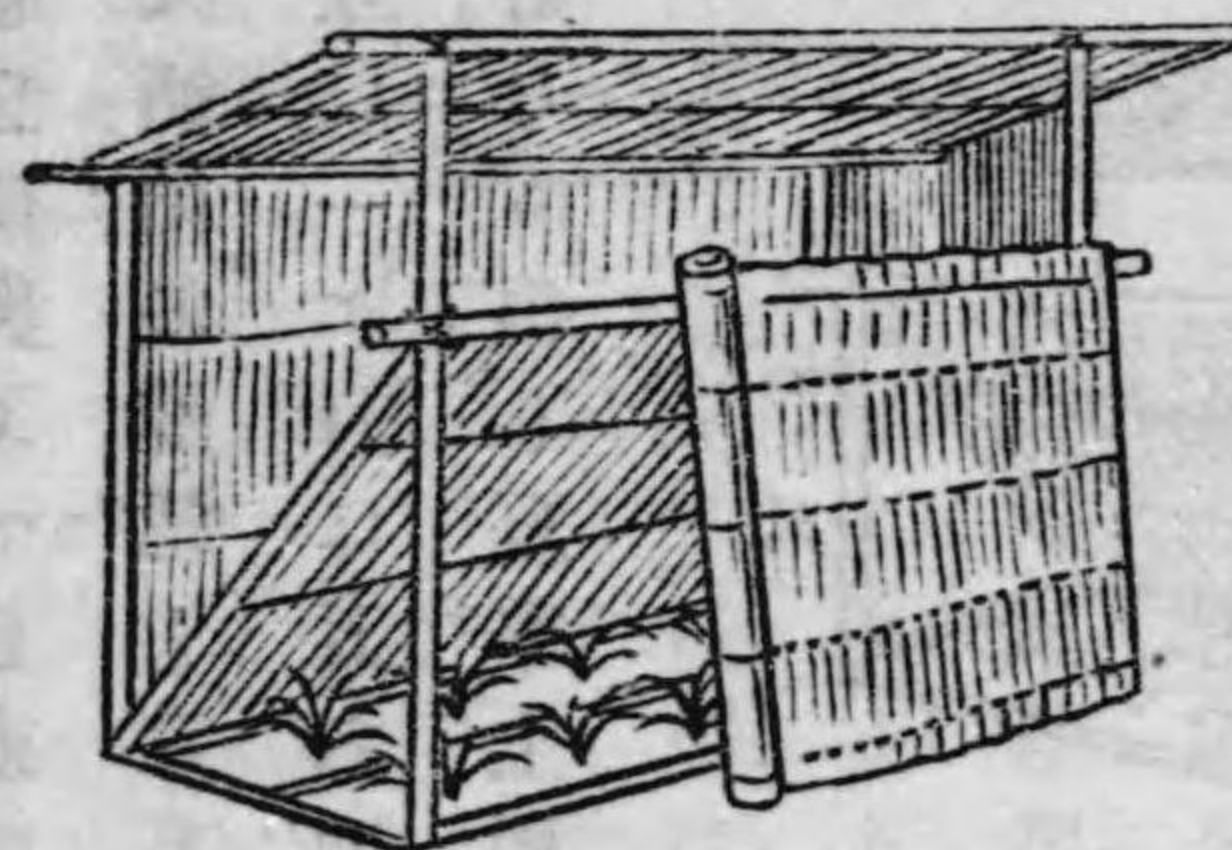


適宜に與ふべし或は之に骨粉三四匁を混和して施すも宜し又油粕の液肥となしたるものと麥の煮汁か或は寒釣大根の煮汁を交互に一ヶ月に五六回位施す時は鉢植のものよりも生育繁殖ともに良好なり但し夏季土用中は肥料を施さざるを良とす是れ炎熱烈しき時期なれば若し此際施肥するときは肥料の爲めに往々根部を腐敗せしめ亦害虫の發生する恐れあればなり土壤乾燥する際には時々注意して灌水し又煎茶の殘物ある時は一二日位放置したるものを與ふべし

雑草生ずる時は勉めて除去し九月中旬頃に鉢に植換へ室内に取り込みて培養すべし然れども尙露地に於て培養せんと欲せば其ま、圃地



に置き斯くて十月の末頃に至れば氣候漸く寒冷となるが故に圃地の  
周周を板又は薦にて高さ五尺位に廻らして寒風の吹き込まざる様に  
装置し二畦位を劃して杭を立て高さ四尺の處に屋根を設け南を高く  
し北方を低く地面に接して藁薦或は麥稈の類にて葺き上げて上圖の  
薦を覆ふたる圖



如くなし東西の兩側にも薦を張り又前面即ち  
南方にも薦を引張る様に装置し晴天の温暖な  
る日には南方の薦を片端へ引き寄せるか又は  
取り除きて麗かなる陽光に浴せしめ寒風吹き  
或は降雪の日夜間等は再び舊の如くに薦を覆  
ひ置くべし而して畦上は一面に粗穀又は麥稈  
の細断したるものを二三寸位の厚さに振り掛  
け尙土壤の水結する虞ある時は火鉢に火を入

れて畦上の處々に置き人工的に温度を與へて寒害を防ぐこと肝要な  
り  
冬季と雖も温度の三十四度位より下降せざる様に注意あれば完全に  
越冬せしむることを得べしされど寒地にありては往々凍害を蒙るこ  
とあれば白露より秋分の頃までに一株を一鉢に町疇に移植して窖藏  
又は岡室に二三段の柵を設けて其上に置くか又は温暖なる舍内或は  
温室内に於て越冬せしめ翌春四月頃に至り暖氣を生じ降霜の憂なき  
に至りて取り出し根に附着せる土を能く振ひ落し若し腐敗せる根或  
は腐敗の兆候ある根等は剪除して清水にてよく洗ひ更に整地せる露  
地へ再び植出すべし  
冬期圃地にあるもの及び不完全なる室内に置く時は往々鼠の爲めに  
葉及び根を喰害せられることあれば注意すべし



若し鼠の出る時は通路に捕鼠器を装置して捕殺するか又は有効なる  
チブス菌を應用し或は近來流行する簡易殺鼠劑(コンモンセンストラツ  
トエキスターミチートル)を菓子團子其他鼠の嗜好物に混入して蘭の  
側に置く時は是を食したる鼠は能く斃死するものなり

第十一章 蕃 殖

蘭は蕃殖鈍き植物にして完全に蕃殖せしむるには只親株の脇に發生  
したる子芽を分栽する法あるのみにして其培養法最も宜しきものは  
一條より一年に往々二條即ち二芽を發生することあれども甚だ稀れ  
にして普通多くは一年に一條より一芽を生ずるものなり然れども施  
肥手入等の宜しからざるものは一芽をも發生せざることありされば  
蘭を増殖せんと欲せば養土施肥管理法等に十分周到なる注意を要す

るものなり

蘭を良く繁殖せしむるには春季子芽發生の四五週間許り前より糞尿  
を百日許りも貯藏腐敗せしめて黒色液になりしものに水五倍位加入  
してよく攪拌したるものを三四回位施すか又は油粕の粉末を風呂水  
にて十分腐熟せしめ其上澄液を汲み取り更に水二分を混入して薄く  
したるものを四五日隔位に與ふべし或は煎茶液を冷却せしめたるも  
のを水の代りに時々遣るもよし  
冬期或は早春の頃は灌水に充分注意せざれば水を澆けて爲めに却て  
株の勢力を損じ往々凍害を蒙らしめ亦枯死せしむることあり然れど  
も茶の煎汁の冷したるものは前にも云へる如く害なく水と肥料の兼  
用となり陽春株の勢力を良好ならしむる効あり  
又花蕾の現出する時は摘み去り成る可く開花せしめざるを良とす斯



くするときは葉の色澤艶麗となるのみならず親株の勢力亦強大となり能く子芽を發生するものなり  
又子條の發生する三四週日前に鶏卵を茹で、蔭干となし之を臼に入れて搗き碎くか又は摺鉢に入れ搗り潰して篩に掛け粉末となしたるものを根元に小溝を穿ちて施し土を被ひ置くも子條を能く發生繁殖せしむることを得べし  
斯くて蕃殖したるものを分栽するには秋九月中旬頃に素焼の鉢に底の孔を貝殻或は魚碗を以て蔽ひ其上へ木炭粗砂を鉢の高さの四分の一程入れて排水を良くし養土を充たし然る後蘭の株を取り葉及び根等を傷めざる様丁寧に軽く植込み直に根元に灌水し二三日程日蔭に置き後ち陽光の和かに當る場所に取り出して培養すべし

第十二章 管理法

蘭は暴風雨の直接當る時は大に葉を損するものなれば三月下旬或は四月上旬頃より十月中下旬頃までは地上より約三四尺位の高さに杭を立てるか又は石杖を立て此上へ厚さ一寸四分乃至二寸巾一尺五寸乃至二尺長さ適宜の板を載せて盆栽棚を作り此上へ蘭鉢を適宜に載せ並べ更に其上に高さ二尺位の處に竹を横渡して簀子を覆ひ日光の直射と暴雨に打叩かるゝを防ぐべし  
盆栽棚を設ける場所は朝日を能く受け而して午後四時頃まで日の當る處を良しとす夕陽の餘りよく映照する處は宜しからず  
白雨の降る時或は霖雨微雨の連日に亘る時は注意して棚の上に板を覆ひ或は家根を作りて雨水の浸入を防ぎ以て盆土の過濕を避けるこ



と肝要なり  
 暴風雨に逢ふ時は葉を折り或は葉摺れて傷を生じ或は折落して生育を害し又品位を下劣ならしむるものなれば葉の上部即ち葉の全長の地上より七分位の處を小繩にて束ねて其害を防ぐべし又鉢の周圍に小き竹を適宜に立て葉を少し内部に寄せ外部より小繩にて縛結するも佳なり但し鉢内に支竹を立てるには成る可く移植の際に根の間に立るを良とす然らずして蘭の生育して根を四方八方に延出したる時に竹を立てるときは根を損傷せしむる恐れあれば注意すべし  
 鉢に夏季より秋季までは一ヶ月に二回位づゝ其位置を取り換へるを良とす即ち東方にある鉢を西方にある鉢と場換へをなし又南方の大陽を受ける方と北方とを回轉せしめて平等に陽光を受けしむべし  
 開花中は稍々水氣を多量に與ふるを良とす然れども餘り濕潤なる時



は根部を腐爛枯死せしむる原因となるものなれば乾濕の度を能く見察して給水すべし又花時は殊に注意して暴雨に逢はしめ或は花上より灌水すべからず若し花を雨にて洗ひ或は水にて濡らすが如きことある時は清麗なる芝香を消失せしむる憂あり

葉或は莖の黄色を呈し枯死の兆あるものは直に切り去るべし然らざれば全葉を枯死せしめ又漸次根部を腐敗せしむるものなり  
 十月の末頃より鉢と共に温暖なる室内に入れ葉の上に塵のかゝらぬ様に



塵除をなすべし  
 其法は紙「ホヤ」即ち紙にて蘭の株を覆ひ包む位なる袋を拵らへ上部に  
 細き穴を二三個明けこれを覆ひ置くべし  
 或は底の方の稍々廣き細目の籠を伏せ覆ひ又は張箱に小穴を明けた  
 るものを覆ひ置くも宜し尙葉に微細なる芥の附着する時は毛の柔か  
 き刷毛或は心無し筆或は羽筆等にて丁寧  
 掃き去るべし  
 若し手にて葉を撫で或は度々觸れる時は葉  
 の生育作用を損じ又黄褐色の斑點を生じ勢  
 力衰弱し遂に枯死せしむることありされば注意して假初にも手にて  
 摩るは勿論觸るゝは宜しからず



第十三章 養蘭四訣

春は出さず (春は降霜降雪寒風等の憂あれば戸外に出さず温暖なる  
 室内に於て培養し天氣晴朗なる日にのみ時々出して陽陽を受けしむ  
 べし)  
 夏は日にせず (蘭は炎蒸烈日を最も忌むものなれば直接日光に當る  
 べからず即ち葭の簾を被ひ置くか又は日蔭に置くべし)  
 秋は乾かさず (乾燥し易ければ油粕の腐汁或は貝類の碎汁又は麥の  
 煮汁豆汁風呂水等を適當に施すこと必要なり)  
 冬は湿さず (温室又は窖藏等の内に取り込みて寒氣を避け又盆土の  
 乾湿に注意し餘り湿らざる様にすべし)



第十四章 病蟲害

根腐病

本病は濕潤に過ぎたる時或は給水不足にして盆土著しく乾燥したる時に急に水を與へるときは葉を蒸害し次で根部を腐敗せしむるものなり

之が豫防法は排水を良くし盆土の乾燥に失せざる様又濕潤に過ぎざるやうに注意して水を遣れば宜し又澁茶液を澆ぐも効あり葉の既に黄色を呈するに至らば直に切り去るか又は抜き取りて焼却すべし然らざれば根部次第に腐爛し終には全體を枯死せしむることあり

蚜蟲

蘭 培 養 録

蘭 培 養 録

蚜蟲の生ずることは甚だ稀なれども春夏の候に往々若芽に生じて葉液を吸収し生育を害することあり  
是が豫防驅除法は先づ空氣の流通良き場所に置き又盆土を過沃ならざる様又施肥等に注意すべし既に蚜蟲の生じたるものは稀薄なる石鹼水或は除蟲菊水を注射すれば効あり  
石油乳劑ポルドウ液等の驅除劑あれども是等は強過ぎるが故に葉を害し又根部を損傷せしむる恐あれば使用せざるを良とす最も安全に驅除するには少し面倒なれども楊子或は刷毛の如きものにて拂ひ落すべし

貝殼蟲

往々葉株に貝殼蟲の附着することあり是が原因は主に空氣の不流通



肥料の多施等に由り株の勢力の軟弱なるものに多く生ずるものなり  
されば務めて強剛に作ることを肝要なり  
若し貝殻虫の寄生したる時は猶豫なく直に毛筆又は羽帚にて叮嚀に  
撫で落し之を豫め石油乳剤を入れ置きたる金盥の如きものに一々拾  
ひ入れて殺すべし

蟻

秋季降霜期に至り蘭を室内に蔵する時は往々赤蟻或は白蟻の發生し  
て這ひ廻ることあり  
是が驅除法は鉢の側に黒砂糖を皿に盛りたるものを置けば之に集ふ  
を以て是を熱湯中に投ずればよく死滅せしむることを得べし又苦茶  
の煎液を冷却したるものを細目の如露にて撒布するも効あり

蘭 培 養 録

第十五章 相場

何物に限らず流行する際には同一品にても價高く不流行の際には安  
價なるは理の當然にして蘭の相場も時と場合によりて昇降あり又種  
類に由り或は培養法の優劣等によりて一定せざれども現今は大約左  
表の如き價格にて賣買せられつゝあり

蘭 培 養 録

寒蘭	（二條の價）	六拾錢内外
暖蘭	同	拾錢乃至二十錢
金龍邊	同	拾五錢内外
豐賽	同	七拾錢乃至一圓
桑原縞	同	二圓乃至五圓
寒法蘭	同	拾錢乃至貳拾錢



蘭 培 養 錄

紫金龍	大和錦	富士	玉花	山蘭	小蘭	玉枕	蘇秦	金華山	太白冠	大朋	欽孝連
(一條の價)	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
七八十錢	十五錢以上五拾錢以下	一圓乃至一圓五拾錢	二拾錢乃至五十錢	拾錢内外	八錢乃至拾五錢	三拾錢乃至五拾錢	拾錢乃至貳拾五錢	壹圓五十錢乃至三圓	二拾錢乃至四拾錢	五拾錢乃至一圓五拾錢	壹圓内外

蘭 培 養 錄

古今輪	一莖一花	一莖九花
(一條の價)	同	同
二三拾錢	貳拾錢内外	拾錢乃至二拾錢

第十六章 培養十一ヶ月

一月

此月は烈寒の氣節なれば温室に於て養ふべし然れども斯の如き設備のなき時は土窖或は寒風の吹き込まざる南面の温暖なる舍内にて寒氣を避け肥料は一二回程極めて薄きものを與へ或は鹿兔の糞を集めて根元に施し又苦茶の煎液を時々與なれば最も佳良なり夜間非常に寒氣烈しき際には舍内或は土窖に藏したるものは火鉢などをに入れて人工的に温度を與へるを良とす



灌水は二週間に一回乃至二回位降雪其他寒冷なる日を避け成る可く晴天の日中温暖なる時に極少量宛與ふべし葉に塵埃の掛りたるときは注意して刷毛又は心無しの毛の軟かき筆を用ひて葉の表裏を軽く拂ふべし

二月

二月も未だ寒氣強けれども一月に比すれば寒氣稍々退きて漸く温氣を増し蘭培養中困難なる時期なり天氣晴朗の日には室内より取り出して陽光を受けしめ夜間は甚だ冷氣を増すものなれば又室内に藏して置くべし灌水は日中に行ひ朝及び夕方には決して行ふべからず而して其回数盆土の乾濕を見計りて七八日乃至二週日毎に一回與ふべし

蘭 培 養 錄

肥料は一月より稍多く施すべし肥料の多きものは新芽の發生多く亦生育頗る旺盛なる利あり然れども其量の餘り過多なる時は根を腐敗せしむる恐あれば最も注意すべし又鉢の周圍に支竹を立て小繩にて葉を束結し以て風害を豫防すべし

三月

天氣好き日には戸外に取り出して新鮮なる空氣と陽光に十分觸れしむべし尙夜間には晩霜あることあれば注意して室内に入れるを良とす又室の南面に硝子障子あるものは障子を隔て又紙障子なる時は障子を取り去りて日中は温陽を受けしむるも宜し此月下旬頃より餘寒漸く去り暖氣日に増すを以て温暖なる地方にありては屋外の盆栽棚に取り出すべし

蘭 培 養 錄



盆栽棚を構造するには強風の當らざる様に北西方を賽ぎ日光の透射宜しき場所を撰み第十二章管理法に於て述べたる如き棚を作り其に鉢を適宜に配列するなり

肥料は三回程油粕の粉末を液肥となしたるものを施し或は骨粉又は兔糞或は髪の毛の洗汁等を施すべし但し多量に與ふるべからず

水は一週日乃至十日目位に與ふべし又大雨は元より宜しからざれども温暖なる微雨なれば三四時間位は浴せしむるも宜し暖かき南風の吹く時は根腐敗し青葉の儘にて根本より往々抜け去ることあれば此際最も注意して餘り灌水をなさざる様にし成る可く南風の當らざる冷所に移すこと肝要なり

又暖風と共に種々の昆蟲類發生し易ければ蘭の葉芽を害せられざる様注意して常に見廻り若し生じ居るを見れば直に捕殺驅除すべし

日一日と温度を増し土壤稍々乾燥するに至るを以て適當に灌水するを要す但し春雨即ち細雨の多き場合には殊更に水を遣る必要なし

肥料は餡の煮汁麥汁煎茶液など成る可く臭氣のなきものを與ふべし臭氣あるものは動もすれば害虫を誘集する虞あればなり

寒き日には日向へ出し暑き日には日光の直射せざる蔭へ廻し置くべし断霜後は夜氣を受くるとも差支なし

前月より此月にかけては能く南風吹き是が爲め青葉のまゝにて株抜け或は根腐ることあり斯の如き場合には勉めて冷涼なる場所へ移すこと必要なり

此月中旬頃より五月初旬頃までは分栽するに良き季節なり



五月

五月は新芽新根を發生する大切なる時期にして恰も人畜の分婉する時の如く最も注意周到ならざれば親株の勢力を害し又新芽の發育を損することあり  
肥料は十分腐熟せる液肥を時々適當に與ふべし  
若し株の勢力強盛にして餘り葉の多過ぎる時は其中にて勢力弱き小葉を撰みて適宜に切り去るべし  
灌水は盆土の乾濕を見て月に七回乃至九回位與ふれば適當なり

六月

暑氣漸く盛んになれば成る可く涼しき場所に置き灌水は雨量の多少

七月

に由り二三日乃至五六日に一回澆ぐべし又暴雨ならざれば雨に當るも宜し  
此月は梅雨期なれば乾濕に注意し降雨連日續く時は雨除をなし又鉢の排水と空氣の流通を良くすること必要なり  
肥料には油粕の粉末を施し或は腐膠水等を三四回程與ふれば最も宜し

炎熱の季節なれば直接日光に當てるは宜しからずされば成る可く日蔭に置く様にし又乾燥する際には注意して水を與へざれば往々熱害を蒙り葉黄色を呈し根部亦腐敗することあり  
灌水は此月に八九回位に止むべし然れども降雨多き際には水を遣る



必要なし  
此月下旬より夏季土用に入るを以て肥料は與へざるを良とす只煎茶の残液などを與ふれば十分なり若し土用中に施肥する時は却て根を腐敗せしめ株を枯死せしむることあり

八月

此月も炎熱焼くが如き期節なるを以て日中は日蔭の冷所に置き夜間は夜露を直接に受けしむるを良とす  
灌水は四五日位に一回日中を避け朝或は晩になすべし  
此月は俄雨の降ること多ければ殊に注意せざれば開花せるものを雨に逢はしむるときは花形を損し又芳香を失ふものなり

蘭 培 養 録

九月

乾濕の度を見計りて三日乃至五六日位に一回灌水すべし此月は如露にて葉上より水を遣るも妨げなし  
又微雨に當てるも佳なり併し大雨或は夕立に當てる時は葉を損するを以て避けざるべからず  
肥料は油粕の三年肥糞汁骨粉雞毛浸水風呂水等を三回程與ふべし若し管理肥培等の宜しからざるものは葉黄色を呈し勢力衰弱することあり斯の如き場合には煎茶液を三日に一回位澆げば妙なり  
蘭を分種するには本月中に行ふを最も良とす分種したるときは根元に水を灌ぎ二三日許り日蔭に置き然る後陽光を受けしむる様にし尙十日許りを經たる頃より煎茶汁を水の代りに用ふれば一層良好なり

蘭 培 養 録



蘭 培 養 録

此月は冷氣加はるを以て晝間は太陽に當て夜間は覆をなして夜露を避くべし

十月

都合に依り九月に分栽することを得ざりしものは此月の上旬遅くも中旬頃までに分種すべし然れども氣候早く寒冷となる地方は前月中に於て分栽すべし  
移植分栽を行ふには葉根を損傷せざる様丁寧に取り扱ふこと肝要なり  
之れ花胎を完全ならしむるが故なり  
此月は冷氣追々増加するを以て日中は陽光に當て夜間は室内に入るべし又寒冷なる地方にありては降霜前に土窖温室室内等に入れて寒氣を避くべし

蘭 培 養 録

灌水は三四回に止め晴天の午前中に澆ぎ午後は與へざるを良とす  
肥料を與へんと欲せば和らかなる肥料を稀薄して二回程遣れば十分なり

十一月

室内にて障子越に陽光を受けしめ又風なき晴朗の日には障子を開放して直接日光に曝し夜は障子を閉ぢて外氣の侵入せざる様に注意し  
水は盆土の乾きたる際に與ふべし  
肥料は本月は全く施さるも宜し  
冬季室内に於て往々鼠の葉根を喰害することあれば注意すべし

十二月



蘭 培 養 錄

蘭 培 養 錄 終

五十六  
 本月は寒冷なる季節なれば温暖なる室内に置き晴天の日には時々日光に浴せしめ灌水は最も注意して行ふべし即ち鉢内の土壤の乾燥したる時に少量與ふべし而して日中に灌水し朝或は晩には決して與ふべからず若し寒冷なる朝夕に施肥し鉢の土壤濕潤なる時は凍害に罹り葉を損じ根部を腐爛せしむる虞あり冬期は水の代りに煎茶を用ふれば安全なり  
 肥料を施す場合には成るべく水肥を避け兎鹿の糞を碎末にしたるものを根元に撒布すべし  
 冬春の寒冷なる際と雖も室内の温度を華氏三十七度乃至四十四五位に保持すれば灌水しても凍害を蒙る憂なし

大正三年二月廿五日印刷  
 大正三年二月廿八日發行

正價金拾五錢

編者 山本久助

發行者 日本種苗株式會社  
東京府豊多摩郡澁橋町大字角善七百六十七番地

右代表者 井上龍太郎

印刷者 齋藤仙吉

東京市芝區新錢座町拾番地

印刷所 近藤商店活版部



發行所

東京内藤新宿  
電車終點際

日本種苗株式會社書籍部



農學士 關豐太郎 閔 皆川松清 著

(最新刊)

# 實地肥料施用法

菊版洋裝三百餘頁  
正價一冊 金四拾錢  
郵稅一冊 金六錢

作物と肥料との關係は恰も人類と食物との如し、故に作物栽培に從事する農家は、肥料施用の智識方法は是非共之を心得置かざる可らず、本書は即ち如上の要求に應ずんとするものにして、先づ作物の三要素、三要素施用上の注意、風土と肥料との關係、作物の種類と肥料との關係、作物に対する三要素の性質、肥料配合の必要及注意より冊有余種の各肥料に就て、其性質成分施用法に至るまで一々著者の學理経験に基き、又は各農事試験場の成績に徴し詳細懇切に説明せり、世上凡百の肥料書とその撰を異にせるは勿論、本書は實に現今農家の渴望を慰するに足る時代の要求によりて現はれたる實地實用の肥料書なり、切に一讀の榮を乞ふ。

千葉縣立園藝專門學校校長農學士 鏡保之助君序

千葉縣園藝試驗場技師 小田鬼八 著

(最新刊)

# 果樹栽培新書

(編前)

菊版洋裝三百餘頁  
正價一冊 金五拾錢  
郵稅一冊 金六錢

蠶に梨樹栽培書を著はし我果樹園藝界に盛名ある小田鬼八氏が多年研究の結果を基礎として該博なる智識を緯とし詳細なる實驗を経とし、蘊蓄を傾注して果樹栽培に關する總ての事項を、最も平易に最も精細に且懇切明瞭に記述せられたるもの即ち本書なり。著者は嘗て兵庫縣農會に技師たり、今現に千葉縣園藝試驗場の技師として寸時もその専門の果樹栽培に就て研鑽を怠らざる人なり。故に本書は彼の所謂農學者の空理空論に非らず、又換骨脱胎の翻譯書に非ず、實地經驗の結果より歸納したる活用書なり。十五、節を分つこと五十一、詳々として説き酒々として論じ來るその内容に至りては敢て茲に贅せず、願くば農界園藝界の有志諸君、試に一本を購ふて本社推稱の偽ならざるを鑑み給へ。

富益紫怨 著

(好評再版)

# 内外草花培養全書

菊版洋裝二百五十頁  
正價一冊 金二十五錢  
郵稅一冊 金四錢

優美なる娛樂にして清新なる趣味に富める草花の培養は、家庭園藝に最もふさはしきものとして、近時社會の上下を通じて偉大なる流行を來せり、本書は此の優美にして趣味ある草花の培養を説くに當り、凡百の書が只に其學名、屬科、性情、栽培法等を述ぶるに止り、千篇一律無味乾燥なるを慨し、行文は著者獨特の雅辭麗句を聯ねて詩趣を横溢せしめ、特に花の形容、傳説、神話等を語るの邊に至りては、筆技神に入りて花精髣髴として微笑するの感あらしむ、切に一讀の榮を乞ふ。

農學士 富益良一 著

(好評第五版)

# 實用蔬菜栽培新法

菊版洋裝美本  
正價一冊 金卅五錢  
郵稅一冊 金四錢

本書は總論に於て蔬菜の必要、蔬菜の効用、蔬菜栽培の目的、蔬菜園の位置、方位と傾斜、氣候、土壤、肥料、苗床、病蟲害を詳論し各論に於て大根、胡蘿蔔、牛蒡、蕪、茄子、胡瓜、西瓜、南瓜、甘藍、高苣、菘類等を始め七十餘種の内外有用蔬菜類を擧て其の栽培法を詳述せり。



本社發行必讀書

井關十二郎著

# 乾燥蔬菜製造法

(最新刊)

正價 一冊 金廿五錢  
郵税 一冊 金四錢

本書の内容は茲に書き盡す能はざるが故に贅せずあらゆる蔬菜に就て農家が直に行ひ得べき範圍に於て乾燥、貯藏の舊法、新式を詳述し且つ一々其經濟調査を示したるもの農家が直に利用し若くは副業的に經營して利益多大なるは請合、尙終りに蔬菜新舊貯藏法を附したり。

井關十二郎著

(最新刊)

# 通俗農事試驗法

正價 一冊 金五十錢  
郵税 一冊 金六錢

近來各地方農家の試作を行ふもの多しと雖も往々試験の性質を了解せずして其方法を誤り注意に缺くる處あるが爲に其成績は以て則るに足らざるのみならず恐るべき大害を與へつゝあり本書は試験に關する一切の事項を詳述せるものにして農家必携の良書なり。

339  
362



339  
362



終